

新任副学長寄稿



副学長に就任して

副学長（企画担当）

崎 山 毅

グローバル化の浸透，少子高齢化の進展などにもなって，大学のあり方が大きな転換点にさしかかっている今日，伝統ある長崎大学の副学長を仰せつかり，その使命と責任の大きさを痛感しています。そして，大学改革の重大な局面である法人化を目前にして，その準備を着々と進めてこられた方々のご努力，ご苦労に，改めて思いを致し，長崎大学変革の達成に心血を注いでおられる学長を補佐するために，全力を傾注する決意を固めているところです。

企画担当副学長としての職務は，まずは，学長の指示に基づく具体的な事項への取り組みですが，基本的な職務のキーワードは，評価，広報，学术交流，安全管理，施設整備，情報セキュリティというところです。この内，前副学長から引き継いで，資料等に取り組んだ幾つかの事項の状況報告などにより，本稿執筆の責を果させていただきます。

現在，本学は，大学評価・学位授与機構の平成14年度着手分の評価に取り組んでいます。機構の評価事業は，「全学テーマ別評価」，「分野別教育評価」及び「分野別研究評価」が主で，当該大学が有する「目的」，「目標」に即して評価が行われることが基本的な方針になっています。

全学テーマ別評価は「全学的な課題に関するテーマ」が，毎年度，設定されて行われる評価で，14年度着手分は「国際的な連携及び交流活動」に関して行われます。現在，組織等評価委員会，学术交流委員会及び留学生交流委員会において，7月末日提出の「自己評価書」が検討されています。次に，分野別教育評価，分野別研究評価は，5年周期を基本として，学部，研究科等を単位として，学問分野ごと

に行われる評価で，14年度着手分の評価対象分野は「人文学系，経済学系，農学系，総合科学」です。本学では，経済学部及び経済学研究科が分野別教育評価を受けます。

組織評価への取り組み及び個人評価への取り組み共に，本学は先駆けグループの大学の一つであると認められています。大学評価・学位授与機構による評価，大学基準協会による評価，ピュア・レビューに基づく部局の外部評価，さらに分野によっては，日本技術者教育認定機構（JABEE）による技術者教育プログラムの評価と多角的な評価がありますが，これらの評価の目的は，評価結果に基づく教育研究活動の改善にありますので，評価疲れすることなく，積極的に取り組む姿勢が必要であると考えています。

次に，法人化を前に，本学が取り組んでいる重要課題に「知的財産本部」があります。これは，教育，研究に加えて，「研究成果の活用に基づく社会貢献」が大学の「第三の使命」として位置づけられようとしている状況に組織的に取り組むための基盤整備です。今，大学に強く求められている社会貢献の一つは，研究成果としての発明，特許等の知的財産の活用による，活力ある経済社会の実現への貢献です。このような社会の要請に積極的に対応するために，本学では，法人化に伴う知的財産の機関管理への移行を見据えて，全学的に知的財産の創出・管理・活用を実施する基盤として，知的財産本部の整備に取り組んでいる次第です。また，関連して，特に知的財産の活用機関として「TL O（技術移転機関）」の設置についても検討が進められています。応用研究，開発研究等の成果を社会貢献につなぐ組織として，

知的財産本部、TLO の順調な設置が必要であると
考えています。

また、本学は、地域貢献を目指す地方化改革をも
進めているところですが、その推進体制として、学
内の「長崎大学地域貢献推進本部」、「地域貢献推進
室」及び長崎県、長崎市、教育委員会等との連携を
はかる「長崎県地域連携推進協議会」が整備されて
います。そして、「環境と人間との共生の実現」を基
本理念として、離島・狭隘地などの地理的条件を克
服するための教育・医療・福祉、人材養成のための

高大連携、水産業振興のための海洋資源開発などの
地域貢献事業への組織的な取り組みを進めていると
ころです。本学は、地域の基幹大学として、このよ
うな取り組みを通じて、自治体等との将来にわたる
パートナーシップを確立していくべきであると考え
ています。

副学長職に就いて約1か月というところです。学
長のリーダーシップの下に、長崎大学にとって望ま
しい変革を実現できるよう、微力ですが、全力で補
佐役を遂行する覚悟です。

